

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2013～2015
 課題番号：25370336
 研究課題名(和文) フランス語系サミュエル・ベケットセミナー

研究課題名(英文) Samuel Beckett seminar in French

研究代表者

MEVEL YANN (MEVEL, YANN)

東北大学・文学研究科・准教授

研究者番号：90431486

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：フランス語系サミュエル・ベケットセミナーを開催することは、フランス文学研究におけるベケットの作品研究を興進するものである。このセミナーは、日本のベケット研究者同士と国際的に著名なベケット研究者の貴重な情報交換の場となる。

ベケット作品の多くは、作者自身によってフランス語に翻訳され、ベケット研究には、独自の分析理論と参照体系がある。本セミナーの意義は、フランス語で書かれたベケット作品の特殊な文脈と、研究の特性を明らかにすることにある。ここに、ベケット作品におけるフランス語とフランス文化を研究することの意義がある。また逆に、フランス文化におけるベケット作品の受容とその慣習を研究する必要性も生じる。

研究成果の概要(英文)：Organizing a Samuel Beckett seminar in French is a way to stimulate research on Samuel Beckett's works in the field of French literature. It gives to Beckett scholars in Japan an opportunity to exchange knowledge and interpretations among them but also with internationally renowned francophone Beckett scholars.

Most of Beckett's works have been translated in French; often by the author himself. Beckett studies also have their own methods of analysis and references. Such a seminar enables to know the specific contexts of the Beckett's works in French, but also the specificities of Beckett studies in French. It is a place of research about the use of the French language and culture in Beckett's works, but also about the use and perceptions of Beckett's works in French culture. Finally, it is a stimulating way to ask the following question: can we consider Samuel Beckett to be a French writer?

研究分野：人文学

キーワード：仏文学 ベケット セミナー 間文化的研究

1. 研究開始当初の背景

サミュエル・ベケットの作品研究は、国際的な発展著しいものであるが、必ずしも各国間で統一的な見解が共有されているわけではない。しかし、こうした各国間の研究傾向の差異について、日本国内では、十分な検討がなされていない状況がある。これは、英語系の研究とフランス語系の研究の間に十分な交流がなされていないためである。そこで、英語系研究との一層の交流を推進するため、フランス語系ベケット研究の日本における組織化を研究代表者は企図した。

1989年の作家没後以降、世界のベケット研究は目覚ましく進展している。その中で、特に成果を挙げているのが受容論的・間文化論的なアプローチである。Bruno Clémentは *L'Œuvre sans qualités. Rhétorique de Samuel Becket* (Seuil, coll. Poétique, 1994) において、フランスのベケット受容においてプラシヨ的な解釈の支配的な状況を指摘した。これは、アングロサクソン系ベケット研究において長い間ヒューマニズム的な読解が続いてきたことと対照的である。また、ウィリアム・マルクスの指摘する通り、ベケット作品の受容は各国で同じ形式を持っているわけではない(William Marx, *L'Adieu à la littérature. Histoire d'une dévalorisation, XVIIIe-XXe siècles*, Minuit, 2005, p. 176)。ベケット没後に、フランスでは、いくつかの重要なテキスト (*Bande et Sarabande*, *Eleutheria*, *Les Os d'Echo*) が出版され、それらの研究が活発に行われているのに対して、アメリカや日本では必ずしも十分な研究評価が行われているとは言い難い。こうした各国間での研究上のギャップは、英語系の研究とフランス語系の研究の分断化にその一因があるだろう。

研究代表者は、これまでベケット研究に20年間従事し、国際研究集会の共同責任者を過去三回務めるなど、国際的なベケット研究の動向に通じていることに加え、世界的に著名なベケット研究者たちとも密なつながりがあり、これまでにさまざまなプロジェクトを立ち上げた実績がある。2010年に東北大学にてフランス語系ベケットセミナーを立ち上げたのは、フランス語系ベケット研究の日本における組織化と英語系研究との一層の交流の推進の必要性を感じたからであった。このような立場から研究代表者は、本研究プロジェクト以前より、日本サミュエル・ベケット研究と連携しながらフランス語系セミナーの意義を伝えてきた。

2. 研究の目的

本プロジェクトにおける目的は、大きく分けて2点ある。ひとつめは、日欧米の研究文献を網羅的に資料収集し、ベケット文献のアーカイブを作成することである。ふたつめは、これが本プロジェクトの中心的な目的であるが、毎年セミナーを開催し、国内外を問わ

ず広く研究者を集め、英語系とフランス語系の研究の垣根を超えたネットワークを構築し、研究成果の共有と発展を促すことである。

進展著しいベケット研究の研究文献資料は、各国で次々と拡大しており、これらの収集・アーカイブ化は、国際的な研究動向を総括し、日本国内に紹介するという本プロジェクトの目的に合致する。ベケット作品には、まだまだ十分な考察がなされていないテキストも多くある。特に、最近公開されたばかりの初期にフランス語で書かれた詩作品や書簡集は優先して収集すべき資料である。フランス語系ベケット研究は、固有の文脈と方法を有している。本プロジェクトは、網羅的なアーカイブを構築することで、このような性格を可視化することができる。

またセミナーは、主としてフランス語系ベケット研究者を集めるものであるが、英語系の研究者の参加を拒むものではない。むしろ、言語の垣根をこえて広く参加者を募ることは、両者間の交流促進という本プロジェクトの目的に沿うものである。若手研究者のみならず、すでに実績を積んだ研究者や世界的に著名な成果をあげている海外の研究者をも招聘し、セミナーの発展につなげたい。

3. 研究の方法

本プロジェクトの研究方法の特徴は、研究代表者の個人研究であると同時に、セミナー参加者による集団的な研究である点にある。日欧米の研究者がそれぞれの課題によって研究を進め、その成果を共有するという学際的な性格を有しており、グローバル化の進む現代世界におけるベケット研究の新たな形を提示するものである。具体的には、以下のような個別的アプローチを共有することで、また英語系の研究とフランス語系の研究のそれぞれのアプローチを共有することで、英語系の研究とフランス語系の研究の2つの研究領域双方の総括的な目配りを可能とするはずである。個別的なアプローチとは、生成論、詩学、文体論(翻訳の問題を含む)、テーマ論(精神分析を含む)、文学史・文化史、間テキスト性あるいは他の諸芸術との関連性、ドラマトゥルギー(作劇法)・演出法、映画分析などである。こうした研究のアーカイブを作成・提示し、セミナー参加者の具体的な研究をケーススタディとして提示するものである。

4. 研究成果

本プロジェクトの目的であるセミナーを毎年開催し、またベケット研究の文献資料を収集し、アーカイブを作成することができた。各セミナーには、日本国内の若手研究者から実績のある研究者、海外の著名な研究者まで、英語系・フランス語系の垣根をこえて、広く参加者を集めることができた。

特に、1年目には、ルウェリン・ブラウン氏をフランス国よりセミナーへ招聘した。氏

は、フランス国におけるベケット研究の第一人者であり、特に精神分析分野で多くの成果を挙げている研究者である。また、これまでにフランスの出版社と共同で多くの仕事をなしており、本プロジェクトの研究成果を公表するため、現在氏と連携して論文集刊行の準備が進行中であり、本年5月中を目処に間もなく刊行予定である。2年目には、スイス・フリブル大学よりトマス・ハンケラー氏を招聘した。氏は、英語、ドイツ語、フランス語を完璧に使役し、各言語でのベケット研究に精通した研究者で、言語間の交流を促進するという本研究プロジェクトの目的に非常に有意義な示唆を多く与えてくれた。3年目には、パリ大8大学よりマルタン・メジュヴァン氏を招聘した。氏の研究は、ベケットの伝記的な研究であり、書簡や日記などを対象とした研究である。氏の貢献により、セミナーではベケットが同時代の作家とどのような関係結び、そうした関係の重要性が明らかとなった。

また、アーカイブ構築のためのベケット研究文献の資料収集は、フランス国立図書館での情報収集をはじめとして、順調に進めることができた。特に、ロンドンのリーディング大学院に置かれているベケット国際基金が保管しているベケット作品の草稿資料の探索を行うことができたのは非常に大きな成果であった。こうした情報収集の成果をもとに、重要な研究文献資料の収集を進め、アーカイブスの充実化を図ることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Mével, Yann, « Les Survivances de l'humour dans *Compagnie* », 査読有, in *Roman 20-50*, n° 60, dossier Samuel Beckett, sous la direction de Fl. de Chalonge et B. Clément, PU de Lille 3, décembre 2015. (p. 67-81)

Mével, Yann, « Marguerite Duras en héritage », 査読無, in *Marguerite Duras. Ecrire dit-elle*, édité par N. Sawada, Bulletin de la Section française, n°44, Faculté des Lettres, Université Rikkyo, Tokyo, 2015. (p. 49-67)

Mével, Yann, « L'Homme et l'animal dans l'imaginaire de Pascal Quignard », 査読無, in *Pascal Quignard. La littérature à son Orient*, ouvrage édité par Ch. Doumet et M. Ogawa, PU de Vincennes, coll. « L'Imaginaire du texte », 2015. (p. 131-146)

Mével, Yann, « Marguerite Duras : poétique des sensations dans l'œuvre indochinoise », 査読無, in *Orient(s) de Marguerite Duras*, sous la direction de Fl. de Chalonge, Y. Mével, A. Ueda, Amsterdam / New York, Rodopi, 2014. (p. 163-174)

Mével, Yann, « Samuel Beckett : pourquoi la poésie ? », 査読有, in *Modernités*, n°36, sous la direction d'E. Benoit, PU de Bordeaux, 2014. (p. 67-80)

Mével, Yann, « Christian Gailly : un pessimiste gai ? », 査読有, in *Existe-t-il un style Minuit ?*, sous la direction de M. Bertrand, K. Germoni, A. Jauer, PU de Provence, 2014. (p. 161-174)

Mével, Yann, « Marguerite Duras et l'ethos humoristique », 査読無, in *Marguerite Duras : le rire dans tous ses éclats*, Actes du colloque dirigé par C. Hanania à la Washington University, Amsterdam / New York, Rodopi, coll. « Faux titre », 2014. (p. 46-65)

Mével, Yann, « Pierre Michon et la bête humaine », 査読有, in *Pierre Michon. La lettre et son ombre*, sous la direction de P.-M. de Biasi, A. Castiglione et D. Viart, Paris, Gallimard, Les Cahiers de la NRF, 2013. (p. 273-284)

Mével, Yann, « Mille et une nuits. Poétique de la nuit chez Samuel Beckett », 査読無, in *Le Nouveau Roman en questions*, n° 7, sous la direction de J. Faerber, Caen, Minard, coll. « La Revue des Lettres Modernes », 2013. (p. 111-127)

[学会発表](計6件)

Mével, Yann, « Marguerite Duras par tous les temps », colloque international *Marguerite Duras 100 ans, sans temps*, sous la direction de Y. Xiaoyi et H. Huang, Ecole Normale Supérieure (Normal University) de Shanghai, 27-29 novembre 2014.

Mével, Yann, « Hiroshima mon amour, à la croisée des arts et des genres », Université d'Hiroshima, 25-26 octobre 2014 : Table ronde organisée par M. Seki (Universités Meiji / Rikkyo).

Mével, Yann, « Tropismes, de Nathalie Sarraute : l'écriture comme mode d'exploration et d'émancipation », le 28^e congrès du CIEF, San Francisco, 29 juin-6 juillet 2014.

Mével, Yann, « Marguerite Duras en héritage », le colloque *Marguerite Duras, Ecrire dit-elle*, sous la direction de N. Sawada et M. Seki, Université Rikkyo, Tokyo, 1er mars 2014.

Mével, Yann, « L'Homme et l'animal dans l'imaginaire de Pascal Quignard », le colloque international *Pascal Quignard. La littérature à son Orient* dirigé par M. Ogawa (U. de Tsukuba), Maison franco-japonaise, Tokyo, novembre 2013.

Mével, Yann, « L'écrivain face à l'inimaginable : regards croisés sur une catastrophe japonaise », le 27^e congrès du CIEF, 6-13 juin 2013, Maurice, Centre de conférence de Grand-Baie.

[図書](計1件)

Fl. de Chalonge, Y. Mével, A. Ueda, *Orient(s) de Marguerite Duras*, Amsterdam / New York, Rodopi, 2014 (383 pages).

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

メヴェル・ヤン (MEVEL, YANN)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：90431486

(2) 研究分担者

なし (0)

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし (0)

研究者番号：